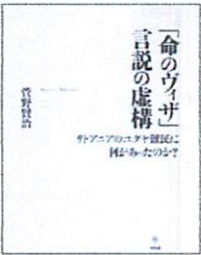


2021.11.4.
校正済

菅野 賢治著

「命のヴィイザ」言説の虚構 リトアニアのユダヤ難民に何があったのか？

カウナス領事代理(着イザ)に関する一次資料
任1939年8月)の杉を発掘し、それに基づいて諸事実の前後関係を精査し洗い直し、批判的に生じたユダヤ人難民(総数一万余千人の一部)に主要な一次資料は、科研費等の公的研究資金をえて調査収集したもので、国際的ユダヤ人支援組織「アメリカ・ユダヤ合同分配委員会(JDC)」の文書群である。任善は、杉原千敏・幸子証言と一次資料の明白な乖離を八つの問題について立証しているところである。誠実な資料調査と歴史像構築の仕方は科学的であり、模範的だといへば可い。著者は、40年夏に「ガス室」恐怖を語る杉原などの事実誤認を批判し、彼の行為が「ナチスのホロコーストからユダヤ難



菊交判・648頁・5520円
共和国
978-4-907986-81-0
TEL.042-420-9997

民を救うため」であったという言説を覆す。著者によれば、40年8月末までの任期中、リトアニアのユダヤ人難民を脅かしたの「忍び寄るナチスの魔手」などではなかった。40年夏、「二部のユダヤ住民とユダヤ難民た

杉原証言と一次資料の明白な乖離

この問題を考える第一級の研究書

永 岑 三 千 輝

ち」にリトアニア残留への大きな不安を抱かせたのは、「ソヴィエトの全体主義」であった。しかし、このテーゼはカウナス領事館に押し寄せたユダヤ人難民が訴える被害と恐怖を軽視して

の「一次資料の語る豊富な立体的事実群によって、実証的に解明しているからである。本書が今後この問題を考える第一級の研究書となること第一〇(ナンテール)大は確実だ。(ながみね・み学博士課程修了。一九六ちてる)横浜市立大学名二年生。

善教授・ドイツ現代史

★かんの・けんじ東

京理科大学教授・フラン

ス語・ユダヤ研究。バリ

第一〇(ナンテール)大

学博士課程修了。一九六

二年生。

もは